

第14回 CIEC サタデーカフェ

開催概要

開催日:2022年7月16日(土)20:00~21:00

会場:Zoom によるオンライン開催

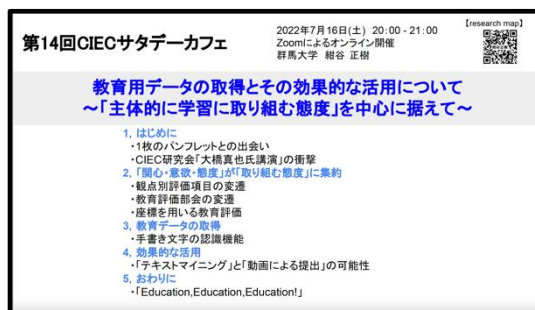
プログラム

20:00 - 20:15 【 話題提供 】

スピーカー:紺谷正樹氏 (群馬大学)

テーマ:「教育用データの取得とその効果的な活用について
～主体的に学習に取り組む態度を中心に据えて～」

20:15 - 21:00 【 参加者とのフリーディスカッション 】



第14回 CIEC サタデーカフェは「教育用データの取得とその効果的な活用について～主体的に学習に取り組む態度を中心に据えて～」をテーマに群馬大学の紺谷正樹氏による話題提供となりました。紺谷氏は一昨年度まで中学校の技術科教員をされており、実際、教育現場で評価に関わってこられた経歴をお持ちです。紺谷氏はまず、「学習評価の在り方ハンドブック」(文部科学省発行)に触れ、そこに掲載の「主体的に学習に取り組む態度」で示されている2次元での評価イメージ(図1)や、個人内評価を評定に入れないことの明示などを通して、教育評価についての研究が進んでいると感じられたようです。また CIEC 主催のデータサイエンス研究会にも参加され、テキストマイニングが効果的に利用できることも実感されたようです。これまで10年ごとに改訂されてきた学習指導要領における評価の観点についても、「関心・意欲・態度」であったものが今改訂では「主体的に学習に取り組む態度」と集約され、この評価が難しいですが、図1のように2次元で表すことで、子どもたちが次にどのようにすれば成績が良くなるのかわかりやすく示されているようです。ご自身はこれまで、単純に各観点での評価を足し算することで成績を付けておられたそうですが、現在ではそうではない方法を考えられており、その中でもテキストマイニングによる評価を検討されています。子どもたちもローマ字入力だけでなく、トグル打ちやペン入力など「学習の個性化」に相当する入力方法を行っており、教師側も「指導の個性化」として入力装置について議論を深めることも必要であるとおっしゃいます。最後に、こういった教育問題が世の中の議論になるように頑張りたいという言葉で話題提供を締めくくられました。

この後、参加者の皆さんでディカッションとなりました。中学校現場時代の評価で大切にしていたことに対する質問があり、当時から評定が受験に利用されることに悩んでおり、一見、数字での評価は客観性があるように見えるが、それよりも大切なのは合意性だと感じているというお答えで、そういった議論が今後なされるべきだと考えておられるようです。また情報科などで観点別評価を積極的に取り入れている先生からは、教科によって評価の方法が異なり、平面的な評価方法も有用なのではという話があり、文部科学省のメクビット(MEXCBT)の開発が進んでくればできるようになることも多く、それに期待したいという話もありました。さらにこれからは複数人数で評価していく時代になるのではという話も出され、そもそも点数による評価に限界がきている点や、他者との比較での評価でなく、絶対的な評価が浸透してほしいなどの意見も出されました。保護者には5段階等の評価の方が説得力があるようですが、国の指針として新しい評価に変わっていきこうしているところに、周りのツールやソフトなども開発され、そういった議論がようやくできるようになってきているという話で今回のサタデーカフェは終了しました。

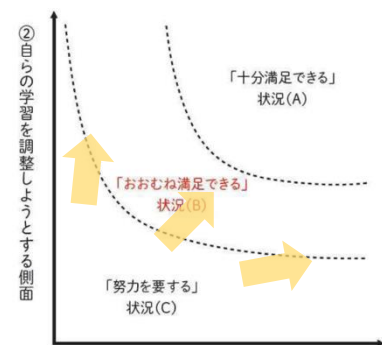


図1. 「主体的に学習に取り組む態度」の評価面のイメージ

「学習評価の在り方ハンドブック」(高等学校編)

2. 「関心・意欲・態度」が「取り組む態度」に集約…観点別評価項目の変遷		
平成10年公示	平成20年公示	平成29年公示
『関心・意欲・態度』 『思考・判断』 『技能・表現』 『知識・理解』	『関心・意欲・態度』 『思考・判断・表現』 『技能』 『知識・理解』	『知識・技能』 『思考・判断・表現』 『主体的に学習に取り組む態度』

【小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 平成29年7月 総則編】P1 中段より転載

……(中略)

このような時代において、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

……(中略)

今回は11名の参加で、大変有意義な時間を過ごしました。終了後の話で、「教育評価についての議論は、教育内容や教育方法の議論よりも少ないことが大きな課題で、今後、ICT 活用の次のステージに教育評価があると思っています。」とおっしゃったのが印象的でした。今回の話題提供者である紺谷氏を始め、ご参加頂いた方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。(文責:平田義隆)